

令和4年度 大阪府立港南造形高等学校 第3回 学校運営協議会 議事録

日 時 令和5年3月17日(金) 15:00~17:00

場 所 本校 本館1階 ガイダンスルーム

委 員 美濃 幸男 大阪樟蔭女子大学 非常勤講師 ※敬称略
渡邊 美香 大阪教育大学 准教授
宮原 康 近畿大学 非常勤講師
佐野 悦子 さざんか平林協議会 副会長
文野 忍 本校後援会
寺田 摩弥 本校PTA副会長

事務局 校長、教頭、事務長、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長、総務部長、保健部長、造形科長、第1学年主任、第2学年主任、第3学年主任、人権教育推進委員長

議 事 1 開会の挨拶

2 委員紹介

3 報告

(1) 令和4年度 本校教育活動の達成状況

本年度は、特にコロナ禍で昨年度まで中止あるいは縮小を余儀なくされていた学校行事の復活、地域連携の再開などを中心に取り組んでまいりました。体育祭、文化祭はコロナの予防を鑑み、昼食の取り方に焦点を当てて開催しました。体育祭は午前だけの開催で皆で会食する機会をなくしました。これは熱中症予防にも効果があったようで、特に大きな事故は起こりませんでした。文化祭では、一般招待OKとしましたが、食品提供をやめ、来校者の校内での食事は控えていただくようにしました。在校生は時間や場所を分散して食事を摂るように指示しました。これにより文化祭もコロナ以前の70%ぐらいは復活したと思っております。他にも修学旅行も計画通りの日程と行程で実施でき、PTA行事もすべて予定通りに行われました。先週行った「卒業式」も3年ぶりに来賓をお招きできる式となりました。

本年度評価について、学校教育自己診断の結果をご説明します。

1-(1)アで見ますと、肯定的回答が令和3年度に90%であったものを維持するという評価指標を立てておりました。授業見学等からは活用している様子が多く見られたため、88%と2%下回っていますが、維持できたと判断しました。

特徴的なところのみ紹介します。1-(1)ウでは、本校に新しく赴任された英語科の先生が、海外の高校生とオンラインでつなぐ国際交流の機会を2、3年生の授業の中で設け、実

際に台湾とつなぎ、生徒同士が自己紹介のプレゼン交流をする場面を見学させていただきました。エは学校から連れていく鑑賞回数は減ったものの生徒が見に行く機会を紹介することも多く、昨年を維持できていると判断しました。

2ーアでは、様々な地域連携を挙げています。大和川再生プロジェクトは、今度桜の開花時4月2日にイベントが行われます。住之江区とは、そのほかにも北加賀屋のすみのエアートビート、加賀屋新田会所とのコラボや防犯教室の紙芝居制作協力、区役所の子育てイベントへの参加など、ここ2年間のうっ憤を晴らすような連携協力ができました。

ーイの防災関係の連携でも地域との合同避難訓練が久しぶりに実施できたことで、目標値の80%には届かなかったものの6ポイント上昇し、78%になりました。ーウでは、国公立大学6名合格からさらに4名が合格し、計10名の合格となっています。また、スクールカウンセラーの来校日を月2回に増やした結果、のべ相談回数も増え、既相談者の経過観察もできるようになりました。

3のセンター校としての役割では、学校としての役割、大阪府としての役割など全国規模の組織の中で十分果たすことができたと思っています。また、生徒の方も作品を発表し、発信することによって日本一の専門美術高校にふさわしい活躍をしてくれました。

(2) 各部・科より報告

①教務部

- (1) 年間行事予定
- (2) 新教育課程
- (3) 令和5年度教科書選定

②生徒指導部

- (1) 補導・懲戒
- (2) みだしなみ指導
- (3) ロッカー整理

③進路指導部

- (1) 18期生進路状況(2月末時点)
- (2) 主な進路関連事項

④総務部

- (1) 学校広報活動
- (2) P T A活動
- (3) 在学奨学金
- (4) 蒼風会

⑤保健部

- (1) 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策
- (2) 各種検診
- (3) 学校保健委員会

⑥造形科

- (1) 芸文際
- (2) アートコンペの結果

⑦第1学年

- (1) 在籍者数
- (2) 学年の取り組み

⑧第2学年

- (1) 在籍者数
- (2) 学年の取り組み
- (3) 修学旅行

⑨第3学年

- (1) 卒業生

⑩人権教育推進委員会

- (1) 生徒への人権教育
- (2) 教職員対象の人権研修

4 協議（議長 美濃委員）

（委員）

学校経営計画について、目標の数値は90%とあるが、88%の数字は誤差の範囲と考えるとよい。評価できる内容で、修正をお願いする部分はない。スクールミッションは、短期間で変更するものではなく、できるだけ変えずに継続するものであってほしい。

（委員）

卒業式に参列したが、卒業生が歌える環境であり、感動した。卒業式後のクラスビデオも卒業生たちの楽しい表情が見られてよかった。

生徒指導部によるロッカー整理は度重なるアナウンスの効果があったのではないか。

来年度は「ようこそ先輩」を3年生だけでなく、全校生徒を対象に開催するとのことで良い取り組みだと思う。

（委員）

新型コロナの影響も少なくなり、様々な行事がコロナ前の状態に戻りつつあるが、行事が多く、生徒たちも忙しいが、先生方の負担が心配。行事を精選することも検討してはどうか。

小中学校の教員向けの講習会は良い取り組みだ。

（委員）

先生方が、生徒にひとつでも頑張ったと言える経験をさせたいという思いを持たれていることはうれしい。学業の成績だけで判断されるのではなく、自分のやってきたことが実感でき、それが評価される社会になってほしい。

(委員)

今年は高校生らしい活動ができたという印象がある。高校生活の今しかない時間を楽しめたのではないか。

教職員の業務軽減について、先生にしかできないことを優先し、業務を整理してほしい。先生の元気がないと学校の元気がなくなってしまう。

生徒たちが取り組んでいるプレゼンテーションは周囲がどのように受け取るのか、伝わり方などについても考えて発表できるように指導してほしい。

(委員)

数字にあまりこだわらずに学校運営をしてほしい。

広報活動はよくやっており、志願者増に成果が表れている。

先生方の業務軽減については、「生徒との接点」を広く厚いものにして、ここだけは外さないようにしていただければと思う。

5 閉会のあいさつ (校長)